

令和5年産

気仙沼・南三陸 稲作情報 第5号

令和5年7月7日発行

宮城県米づくり推進気仙沼地方本部・宮城県気仙沼農業改良普及センター

TEL 0226-25-8069 FAX 0226-22-1606

今後の管理のポイント

- ・中干し終了直後は走り水程度とし、徐々に湛水状態に戻しましょう。
- ・葉色を維持し収量・品質を確保するため、追肥を行いましょ。
- ・いもち病の発生に注意し、発生が確認された場合は速やかに防除しましょ。

1 気象の概況

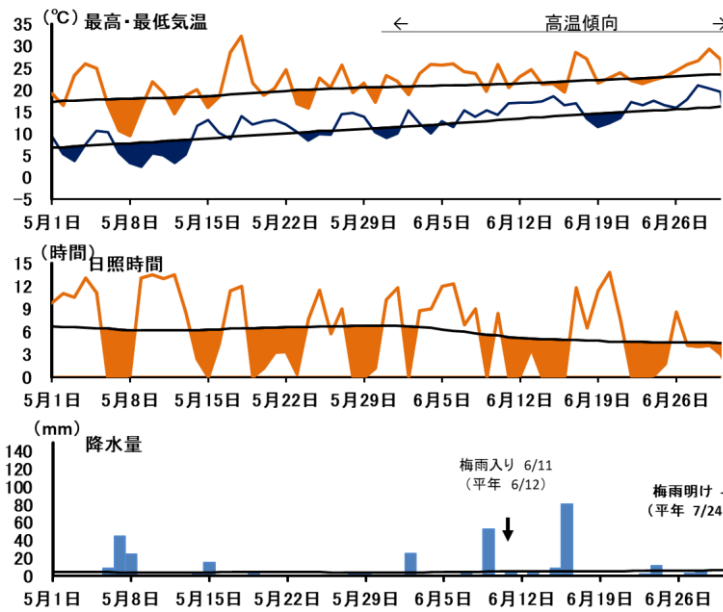


表1 気象経過 (気仙沼アメダス)

	平均気温(°C)		日照時間(h)		降水量(mm)	
	本年値	平年差	本年値	平年比	本年値	平年比
6月 上旬	18.6	2.3	78.2	120%	82.0	208%
6月 中旬	19.1	1.5	47.5	97%	101.0	183%
6月 下旬	20.7	1.9	33.6	74%	24.0	41%

【6月の気象】

期間をとおして高温で推移しました。上中旬は大雨があったため降水量は平年より多く、日照は上旬が平年を上回ったものの、下旬は平年より少なくなっています。

図1 気象経過図 (気仙沼アメダス：5月1日～6月30日)

2 水稲生育調査ほの生育概況

表2 水稲生育調査結果 (6月30日調査)

品 種 地区名		田植日	栽植密度 (株/m ²)	草丈 (cm)	莖数 (本/m ²)	葉色値 (GM)
ひとめぼれ 気仙沼市 (本吉町)	本 年	5/14	20.3	48.3	676.0	39.0
	前年比・差	+3	98%	103%	113%	+1.0
	平年比・差	±0	101%	104%	111%	+0.3
ひとめぼれ 南三陸町 (志津川)	本 年	5/11	18.0	54.7	504.0	39.3
	前年比・差	-2	94%	107%	97%	+1.6
	平年比・差	-2	99%	108%	101%	+0.2

注) 平年値は平成30年から令和4年までの5か年の平均値

- ・6月は高温で推移したため、平年並から上回る生育となっています。6月30日現在、幼穂形成は確認されませんでした。節は上がってきており、幼穂形成始期(幼穂長1～2mm)の直前と考えられます。
- ・幼穂形成期の莖数の目安は470～530本/m²であり、本吉でやや過剰となっていますが、葉色の急激な低下はなく、今後の追肥で生育を調整できる範囲です。

3 今後の管理の留意点

【中干し】

- 中干し終了直後は走り水程度（表面に浅く水を行き渡らせる）とし、徐々に湛水状態に戻しましょう。
 ※急に水を張ると、根を傷める危険があります。
 ※幼穂形成期前に完了するのが基本ですが、今年は高温により幼穂形成期も早まる見込みです。**未実施のほ場は、速やかに中干しを実施しましょう。**
 →すでに中干しを実施・完了したほ場も、無効分げつの発生を抑制するため、幼穂形成期までは走り水程度とし、土の硬さを保ちましょう。

【深水管理】

- 「最低気温 17℃以下」または「日平均気温 20℃以下」が数日続く場合、花粉の形成がうまくいかず減収につながる可能性があります。
 →幼穂形成期（出穂 20～25 日前）の低温時には、水深 10cm 程度に湛水してください。

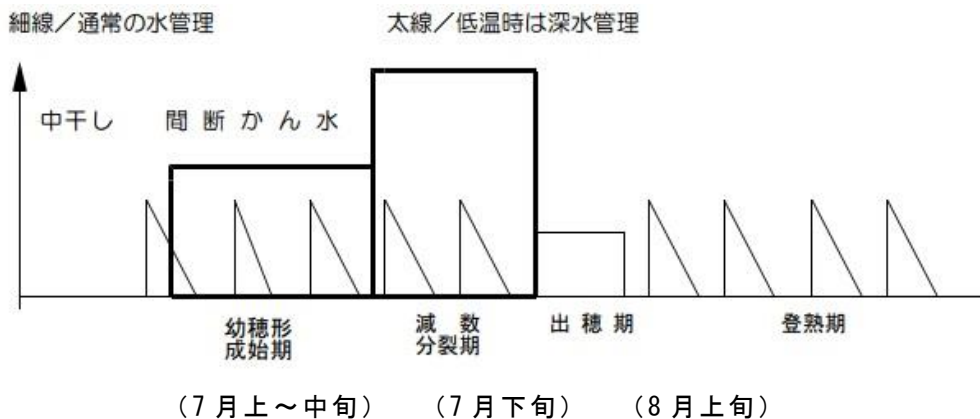


図2 出穂期までの水田水管理体系（宮城の稲作指導指針（基本編））

【追肥】

- 収量・品質の確保には、幼穂形成期、減数分裂期の追肥が効果的です。特に、高温時は水稻の活力維持に有効なため、生育目標値（表3）を参考に、幼穂形成期と減数分裂期に追肥（窒素分量それぞれ 1kg/10a）※を施用しましょう。
 ※葉色が濃い場合や草丈が長い場合、茎数が多い場合は追肥を省略・減量してください。

表3 適正穂数及び品質を確保するための生育目標値「ひとめぼれ」（普及に移す技術第86号）

	分けつ最盛期頃	最高分けつ期頃	幼穂形成期頃	減数分裂期頃
草丈(cm)	32～34	45～48	56～59	66～69
茎数(本/㎡)	310～360	460～520	470～530	450～500
葉緑素計値	41～44	40～42	38～40	35～37

※生育ステージの記載は、暦日を基に一部改変した。

※減数分裂期頃の葉緑素計値は期待葉色値を用いた。

表4 幼穂の長さとお穂までの日数の目安

生育ステージ	時期 本吉「ひとめぼれ」平年値	出穂前 日数	幼穂長 (mm)	葉耳間長 (cm)
幼穂形成始期	7月12日	25日	1～2	-
減数分裂期	始期	7月22日	30～40	-10
	盛期	7月25日	12日	80～100

注) 葉耳間長：止葉の葉耳とその下の葉の葉耳との間隔によって、出穂前日数を予想することができます。

【雑草防除】

- 初中期一発剤を散布したほ場でも残草があれば、雑草の種類や葉齢、稲の生育ステージを確認し、中・後期剤等を適期に散布しましょう※。
※雑草がすでに大きくなっている場合は、比較的効果の高い茎葉散布剤や粒剤の落水散布を検討してください。その際、水尻はきちんと閉じましょう。
- ヒエやイヌホタルイ、シズイ等の雑草は、稲の出穂前に斑点米カメムシ類を水田に呼び寄せ、斑点米発生による落等につながります。雑草対策を徹底しましょう。

【病虫害防除】

○いもち病

- 箱施用剤による予防防除を行っていない場合は、水面施用剤（粒剤、パック剤）を速やかに散布しましょう。
- 箱施用剤等による予防防除を実施した場合でも、発病がみられたときは、速やかに茎葉散布剤で防除してください。
- 葉いもちは、直接収量や品質に影響を及ぼす穂いもちの伝染源となります。予防防除が基本であり、発病が進展してからの防除では十分な効果が期待できないため、水田をこまめに見回り、早期発見と防除に努めましょう。
→特に、追肥後は罹病しやすくなるため注意してください。

○だて正夢の栽培管理

表5 だて正夢現地栽培技術普及展示ほの生育調査結果（6月30日調査）

品 種 地区名		田植日	栽植密度 (株/㎡)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉色値 (GM)
だて正夢	本 年	5/7	19.9	54.2	503.5	36.6
気仙沼市	前年比・差	-4	95%	109%	97%	+1.7
(本吉町)	平年比・差	-7	99%	112%	104%	-0.7

注) 平年値は平成30年から令和4年までの5か年の平均値

- ・幼穂形成始期の直前になっており、生育は早まっています。
- ・幼穂形成期の生育目安は、茎数 390~460 本/㎡、葉色 40~42 です。茎数は十分確保できていますが、葉色は低くなっています。
- ・標準の追肥は減数分裂期（7月25日頃）に窒素分 2kg/10a ですが、葉色の低下が早い場合は、前倒して窒素分 1kg/10a 程度の実施も検討してください。

○金のいぶきの栽培管理

表6 金のいぶき現地栽培技術普及展示ほの生育調査結果（6月30日調査）

品 種 地区名		田植日	栽植密度 (株/㎡)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉色値 (GM)
金のいぶき	本 年	5/20	19.7	44.0	703.3	39.1
気仙沼市	前年比・差	+9	102%	89%	125%	+1.7
(本吉町)	平年比・差	+9	102%	92%	127%	+4.5

注) 平年値は令和3年から令和4年までの2か年の平均値

- ・幼穂形成期の直前になっており、生育は早まっています。
- ・幼穂形成期の生育目安（表7）は、茎数 570~620 本/㎡、葉色 33~35 です。茎数が過剰ですが、葉色は保てているため、下記のとおり適期追肥し、適正な葉色を維持しましょう。
- ・標準の追肥は幼穂形成期（7月中旬）、減数分裂期（7月下旬）にそれぞれ窒素成分量 1kg/10a です。また、穂揃い期にも同量の追肥を行うと、収量・品質確保に効果的です。
- ・「金のいぶき」は、穂いもち病に弱い品種なので、普及に移す技術「「金のいぶき」のいもち病防除体系 追補（第93号参考資料）」等を参照し、育苗箱施用剤を使用している場合でも、水面施用剤（パック剤・粒剤）や茎葉散布剤の体系処理を検討してください。

※「金のいぶき」の作付けにあたっては、「水稻新品種「金のいぶき」生産対策実施要領」に基づく登録が必要となるため、詳しくは農業改良普及センターまたは県みやぎ米推進課に確認してください。

表7 金のいぶきの生育量の目安（宮城県「普及に移す技術」第95号）

項目	幼穂形成期	減数分裂期	出穂期
	7月15日頃	7月25日頃	8月10日頃
草丈 (cm)	65~70	83~88	
茎数・穂数 (本/㎡)	570~620	490~540	460~510
葉色 (SPAD値)	33~35	30~32	31~33
主茎葉数 (葉)	11.0~11.4	12.0~12.4	12.9~13.3

○直はの栽培管理

表8 水稲直は現地栽培技術普及展示ほの生育調査結果（6月30日調査）

品 種 地区名		播種日	苗立率 (%)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉色値 (GM)
ひとめぼれ	本 年	3/15	36.4%	36.4	133.4	28.2
気仙沼市 (本吉町)	前年比・差	-	-	98%	36%	-11.1
	平年比・差	-	-	106%	26%	-11.4

注1) 播種方式はグレーンドリルによる乾田直は（条播）

注2) 草丈以降の平年値は平成30年から令和4年までの湛水直は5か年の平均値（参考）

- 展示ほでは漏水の影響により肥効の発現が抑制されたことにより、茎数の増加が抑制されています。
- ⇒ 中後期除草剤の茎葉散布を行ったことで、後発雑草は抑制されました。
7月5日に追肥を実施したので、茎数確保に向け湛水を継続しています。
- ※ 鎮圧により土壌硬度は確保できているため、茎数が増加次第、肥効調節、酸素供給による根の健全化のための中干を行います。
(中干し開始の茎数の目安：310～360本/m²)
- 今後発生してくる雑草や病害虫は、基本的には移植栽培と同様に実施します。
→ 湛水直は栽培は移植栽培と比較して7～10日程度生育が遅くなりますが、乾田直はの場合は、おおむね同程度です。
斑点米カメムシ類等の防除時期も生育にあわせるように注意しましょう。

○東北地方の1か月予報（7月8日～8月7日までの天候見通し）によると、予想される向こう1か月の天候は次のとおりです。

期間中の気温は高く、降水量は平年並が多い、日照時間はほぼ平年並の見込みです。

（仙台管区气象台 令和5年7月6日発表）

（https://www.jma.go.jp/bosai/season/#area_type=offices&area_code=040000&term=1month）

○7月以降も引き続き高温が予想されています。

・熱中症にならないよう、作業前・作業中に定期的に塩分・水分を補給するとともに、休憩をとりましょう。

・具合が悪くなった人へは、下記の応急処置を行いましょう。

① 涼しい場所に移動する。

② 衣服をゆるめ、首や足の付け根、脇の下を冷やす。

③ スポーツドリンクなどで塩分・水分を補給する。

※呼びかけに回答できない、自力で水が飲めない、上記処置をしても体調が回復しない場合は、ためらわず直ちに救急車を呼びましょう。

■熱中症対策の詳細は下記も参考にしてください。

厚生労働省

「熱中症を防ぐために知っておきたいこと熱中症予防のための情報・資料サイト」

URL

（https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/nettyuu/nettyuu_taisaku/index.html）

○6月1日～8月31日は「令和5年度宮城県農薬危害防止運動」の実施期間です。

農薬を使用する前には、必ず使用可能な作物名・対象病害虫や雑草、収穫前日数等の登録情報をラベルやウェブサイト等で確認し、使用時期、使用方法、使用量を守って使用しましょう。

最新の農薬登録情報は、農林水産省のウェブサイト（下記）※で確認できます。

URL（<https://pesticide.maff.go.jp/>）